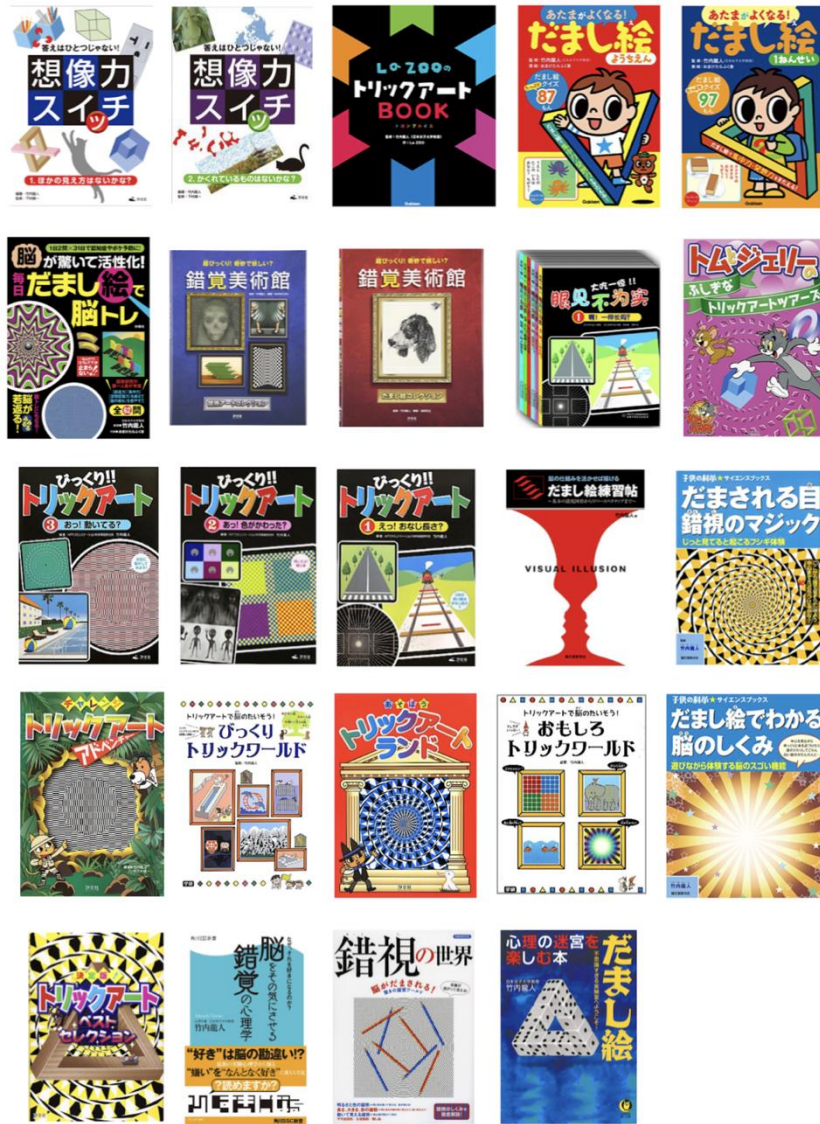




研究者名※	竹内龍人	学位※	博士(心理学)
所属※	人間社会学部 心理学科	職名※	教授
連絡先	takeuchi@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://sites.google.com/view/takeuchitatsuto/		
researchmap※	https://researchmap.jp/tatsutot/		
研究分野※	実験心理学、知覚心理学、デザイン心理学		
研究キーワード※	視覚心理学、錯視		
共同研究・競争的資金等の研究課題	科研費(研究代表者) 基盤B(2010-2012)、挑戦的萌芽(2012-2014)、基盤B(2013-2016)、基盤C(2016-2019)、 基盤B(2020-) https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000050396165/ その他企業との共同研究、デザイン監修など多数		
社会貢献・産学官連携活動等	・国家公務員総合職試験専門委員(2018- ) ・教科書 小学4年国語(学校図書)「だまし絵で分かる脳のしくみ」(2019- ) ・NTT(日本電信電話株式会社)錯視サイトの制作協力 https://illusion-forum.ilab.ntt.co.jp/		
受賞歴	日本基礎心理学会論文賞(2015)、映像情報メディア学会ベストオーサー(2012、2014)など https://sites.google.com/view/takeuchitatsuto/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E8%A8%98%E9%8C%B2#h.p_L56WmsaNNMZi		

研究領域	視覚、錯視、教育	(SDGs)	
研究テーマ※	錯視コンテンツの教育的利用		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>目の錯覚(錯視)は日常において頻繁に起こり、私たちの物の見え方や判断に大きな影響を及ぼしている。そのため、錯視の原理を知ることは、よりよいデザインを考案するために重要である。</p> <p>錯視を映像コンテンツとしてとらえた場合、錯視は老若男女問わず楽しめるエンターテインメントとなりうる。実際とは異なる見えをもたらす錯視は、誰にも驚きを与え、知的好奇心を刺激する。同時に、なぜ錯視が生じるかを考えることは、生物の感覚系や脳の仕組みの理解に結びつく。</p> <p>こうした背景に基づき、幼児や児童を対象にして、よりわかりやすい錯視図形をデザインし、得られた錯視体験から生物の脳の仕組みを解説する活動(執筆、講演、Webコンテンツ制作など)を進めてきた。以下にこれまでに出版した錯視教育関連の書籍の一部を掲載する。今後はバーチャルリアリティなど新しい映像提示技術を用いることで、錯視体験をより深めるような工夫をしていく計画である。</p>		



本研究関連  
特許・論文等

・関連する学術誌発表論文および特許のリスト  
<https://sites.google.com/view/takeuchitatsuto/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E8%A8%98%E9%8C%B2>

共同研究・外部機関  
との連携への期待

・  
・